

首都圏発

交流サイトで キャリア教育

交流サイトのフェイスブック（FB）を活用し、さまざまな種類の社会人の職業観や人生経験を直接聞くキャリア教育の授業が、埼玉県内の中学校で始まっている。「具体的なアドバイスが得られるので参考になる」とデジタル世代の中学生に評判だ。

埼玉・越谷の中学校

仕事の質問 直接社会人に

10月中旬、越谷市立大袋中学校。3年1組の3時間目は社会科の公民だった。生徒が見つめるタブレット型情報端末iPadの画面に、スポーツ用品店の経営者、学校の先生、看護師、司法書士などの職種が並ぶ。海外に関わる仕事の画面をタッチしたのは、一番前の席の金子友菜さん。将来めざしている通訳の画面を開くと、東京都中野区に住む通訳酒井由紀子さん（47）が登場した。

金子さんは、画面をタッチして通訳をめざしたきっかけや楽しさなどを酒井さんに質問。時間をおいて届いた返信には「実は通訳になろうと思ったことは一度もないのです。英語が話せて、聞けて、読み書きができたため、秘書をしていた会社で通訳の仕事に頼まれました」とあった。元々、やりたい仕事ではなかったことに金子さんは驚いた。

「今はやりがいを感じていますが、環境の違いなどいかに理解しあうかという点をサポートするのが通訳の仕事だと思えます」と助言も添えられていた。



フェイスブックでさまざまな種類の社会人と交流する生徒たち
＝埼玉県越谷市の大袋中学校

技術、大学などが協力

大袋中が使うFBの画面はこの夏、近くの文教大教育研究所の研究員や同大の学生、ネット上のコミュニティサービスを提供するガイアックス（東京都品川区）が協力して作成した。

金子さんは「両親や先生以外の大人とやりとりできる。将来の夢に向かってプロにダイレクトに聞ける」と話す。医療系に興味がある野田清敬君も「図書室に職業の本はあるが具体性がない。FBは生々しい声を聞くことができる」。

現在、71人の社会人が大袋中のFBに書き込んでいる。参加者の一人で東京都内の出版社で営業をしている岡野利明さん（56）は「職場体験で来る子どもたちに仕事内容を伝えきれないもどかしさがあるが、FBなら文章で補える。社会に出て勉強がどうつながるかを教えたい」。東京都国立市の看護師中島かなんさん（32）は「普段、中学生との関わりはなく、交流できるのはうれしい。大人がどれだけ真剣に取り組んでいるか、悩んでいるかを丁寧に伝える。授業内容は近く、県内の中学校進路指導研究会で発表する予定だ」。

大阪府高石市の羽衣学園高校では、1年生20人が伝統の踊りや名所などテーマごとに課題を設け、調べた内容をFBで発信。どうしたら解決できるか、交流相手とのやりとりから学ぶ学習に取り組んでいる。

大阪私学教育情報化研究会は昨年、FBなどを通じて高校生たちが議論をする「ネット熟議」を始めた。同研究会の米田謙三副会長は「FBでのキャリア教育は熟議でも広めていきたい」と話す。

（高田純一）

「伝えたい」と参加理由を話す。

キャリア教育はこれまで校内で年1回ほど、社会人の講演を聞いていた。FBを取り入れようと発案したのは大西久雄校長だ。

「目前にその人がいるつもり」「自分が嫌なことは相手も嫌」など、FBを正しく使うための5カ条も設けた。大西校長は「将来、社会人としてどう働いて、どう生きていくかを広く大人から学んでもらうのがねらい。きちんと使えるマナーやルールも身につけさせている」と話す。同校はFBに書き込みをしてくれる社会人を募っている。問い合わせは大袋中（048・975・3830）へ。

身長が70センチ、体重が197キロ。測されたか、弟の尊、釈、同